慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	所謂る農村問題の実態
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1932
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.26, No.10 (1932. 10) ,p.1971(465)- 2002(496)
JaLC DOI	10.14991/001.19321001-0465
Abstract	
Notes	慶應義塾創立七十五年記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19321001-0465

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(8) loc. cit. (p. 144)
(9) loc. cit. (p. 145-6)
(10) loc. cit. (p. 146-7)
(11)(12) Cours, IIIe Partie, ch. 5. (p. 173)
(13)(14) loc. cit. (p. 174)

所謂る農村問題の實態

氣賀勘重

一

農村窮乏の聲は由來既に久しく耳にする所であり、之が救濟を目的とせる農村問題解決の手段方策も亦多年來常に論議立案された所である。けれども其聲は最近に至りて殊に喧しく、問題の解決に關する各種の手段方策實行の要求は昨年以來特に甚だしきを加へ來つた。而して喧々囂々たる農村論者の議論と提議とは、近年著しく其巧妙を加へ來れる農村運動者農村政治家の活動と相待ち、世界的大不景氣に當面せる一般經濟界の不安に乘じて社會各方面に大々的感動を惹起し、社會公衆をして恰も農村全般の危機焦眉の急に迫れるものゝ如く、若し今日に於て忽遑救濟の處置を施すに非ざれば如何なる危險の勃發するやも計られざるが如き感を抱かしむるに至つたやの觀がある。是に於てか識者はそれ〴〵更に適當なる對案施策の檢討と提唱に熱中し、政治家殊に農村關係の政治家は各其所信に從つて各種對策の實行を當局に迫らんとし、政府當局亦此風潮に驅られて只管應急恒久の對策實施に努力するに至つた。斯くて所謂る非常時政界の問題は外に對しては滿蒙及び對支の問題に集中し、內に在りては農村救濟問題

を主とするの有樣と爲り、今年度に於ける前後二回の臨時議會も、恰も此等兩問題に對する應急的施設の解決を主眼とせるのみならず、軈て來ん通常議會の主要問題も亦等しく此等の問題、殊に農村救濟の恒久的施設に主力を注がんとするやの形勢に見受けらるゝ。勿論其間に於て他の方面の問題、殊に非常時に於ける一般金融の問題、對外貿易の振興、外國爲替の安定、中小商工業の救濟等種々の問題、各般の對策の攻究され討議されたものも少なくない。然かも其攻究討議に際しては殆ど常に農村に及ぼす其影響、農村救濟上に於ける其效果の云爲せられぬことは無く、幾多の金融施設の如きは殆ど全く農村の利害を眼目として提唱せられるの實狀である。農村問題解決の急要視され、農村の利害の重大視さるゝこと今日の如きは、明治維新以來全く例の無いことである。

從つて此間に於て、各方面より提唱せられたる救濟の法案方策を觀れば、其數は頗る多い。現に政府當局が責任を以て應急對策として本年八月の臨時議會に提出したもの丈けでも、米穀法の改正を初め負債整理組合法、不動產資金の融通、地方事業の助成、義務教育費國庫補助の增加、低利資金の融通等決して少なからざる上に、更に恒久的救濟對策として將來に向つて立案を約束せる案件も亦決して少なしとせず。更に政友會民政黨其他の政黨政派を初め、農會町村長會等の諸團體さては公私各方面の識者並に諸研究團體等から提唱され主張さるゝに至つた方策法案を點檢すれば、其數實に枚擧に遑あらず。農村の振興又は疲弊救濟の策として從來農業政策經濟政策の教科書に列擧せらるゝあらゆる施設が殆ど悉く列擧せられたるは勿論、中には眞面目な施設として識者の一顧だに價しなかつた樣な珍案奇策すら、所謂る非常時の對策として堂々主張せらるゝ如きものも見受けらるゝ。農村の窮乏は既に久しき以前からの問題であり、之に對する施設畫策も亦數十年來常に識者憂世家の攻究し主張した所であるから、最近其窮乏の聲特に喧しきに及んで、それ等の諸施設諸畫策が一時に急速實現の必要を叫ばれ、又從來の施設の效果餘り華々しからざるを見て、更に一段の急進的な方策や新奇の妙案が案出せらるゝに至つたのも、憂世の至情誠に無理ならぬ次第である。而して又此等各種の施設方策も各其一を取つて之を觀れば、それ〴〵に相當の效果はあるもので、適當の時適當な場合に之を施せば、何れも相當の成績を擧げ得るに相違ない。けれども此等の施設には何れもそれ〴〵に相當の努力と經費とを要することであり、其一部分を實行するとしても相應の成績を擧げんが爲には可なりの財政的負擔を必要とする。現に現政府が應急的の對策として最近の臨時議會に提案せる數種の施設丈けでも國庫の負擔は一億數千萬に上り、更に地方の負擔を加ふれば四五億に達するといはるゝ。然かも其施設は決して徹底的なものでは無く、單に米價の調節と負債整理の兩計畫のみを觀ても、斯る程度の施設にて能く其目的を達し得可しとは、到底想像し得られぬ如き次第で、世上各方面から施設不徹底、羊頭狗肉の非難の絶えざる始末である。果して然らば更に此上に各方面から要求さるゝ各種の應急施設を加へ、且つ又各種の恒久的對策を實施せんとするに於ては幾何の經費を要し、幾何の人間と幾何の才能とを必要とす可きか。國家の負擔力は無限なるものに非ず、當局者の才能も亦決して超人的のものに非ずとせば、斯る雜然たる諸對策の一齊要求は如何なる國家、如何なる內閣當路者と雖も、到底應じ得る所では無いであらう。

加之、斯の如く種々雜多なる諸對策を漫然一時一齊に實施するのは、決して實際に農村の窮乏を救濟する所以で

なく、應急的救濟の效果の擧がらざるは勿論、農村將來の發達繁榮の爲にも亦決して喜ぶ可き效果を齎らすものではないであらう。元來經濟政策は恰も國民經濟といふ一つの身體の疾患に對する醫療手段の如きものである。人間の心身に何等の苦惱なく何等の異狀もなく、健かに活動しつゝあるならば、其人に對して何等醫療の必要が無いと同樣、若し國民經濟の各部全般に亘りて何等の不平不滿も無く、社會の全局面何れにも經濟上の缺陷が認められないならば、區々たる經濟政策の施設畫策は何等の用も無い次第である。斯る施設の必要を感ずるのは、要するに經濟社會何れかの局部に何等かの缺陷があり、其缺陷の爲に種々の方面種々の階級に苦惱又は不滿を覺えしむるが爲である。而して可及的此等の苦惱を除去し此等の不滿を緩和せんとするの施設こそ正に經濟政策の各種施設であるのである。故に經濟政策上の施設を實行するに當つては、先づ當該經濟社會の疾患の症狀を明にし、其症狀の由つて來れる原因を究めて、之に適應する樣な對症療法を選定せねばならぬ。

人間の病患には昔から四百四病といふ樣に種々雜多の疾病があり、同一の疾病にも緩急輕重種々の症狀があるので、隨つて醫療の方法も列擧し來れば古來千差萬樣である。然かも醫家の患者に對するや、先づ其病狀を糺し、其病源を明にして一定の診斷を下し、其診斷に應じてそれ〴〵に適當の治病方法を施すものであることは世間周知の事實である。現代の醫療技術が今尙ほ主として對症的治療の域を脱せぬとはいへ、單に患者の表面的症狀のみを觀て、病源の如何を考察することなく、漫然之が對證處置を施すこと、例へば唯々發熱あるを見て窒扶斯患者たると感冒患者たるとを顧ることなく漫然之に解熱劑を投じたり、又單に下痢あるを見て、其下痢症狀の由來を明にすることなく漫然之に收斂劑を用ひたりする樣なことは、餘程無責任な庸醫でない以上決して之を敢てするものでは無い。而して又斯樣な無知無責任な庸醫の處置投藥は多くは治療上何等の效果の無い許りでなく、却つて有害の場合が多い次第は、吾々の屢々見聞する所である。經濟政策上の施設も亦正に斯の如くで、國民經濟の全部若しくは一局部の苦惱又は不滿に對し、其苦惱又は不滿の實態及び輕重緩急を明にすることなく、又其由つて來れる本源を詳にすることなく、唯、漠然其苦痛若しくは不滿を訴ふる患者の言に聽從して、漫然其苦惱と不滿に應ずるあらゆる對症的處置を施さんとするが如きは、國民經濟の發達の爲に有害無益なるは勿論、實に危險此上もなき次第といはねばならぬ。由來多くの病氣には多少の發熱と疼痛並に衰弱を伴ふものであるが、今若し斯る患者に對して病症の性質を究むることなく、漫然之に解熱劑と興奮劑と鎭痛劑とを同時に投藥して平然たる庸醫があつたとするならば、世間は果して之を何といふであらう。然るに我國最近の農村問題さては所謂る非常時經濟問題の解決に對する世間嘗々の對策を觀れば、吾々は恰も此庸醫に對するの感なきを得ぬ。それ〴〵の救濟策を提唱せる識者は勿論それ〴〵に一定の病源を認めてそれ〴〵之に對するの策を提案したことであらうと思はるゝけれども、此等各種の提案をば何れも之を否認することなく、彼も可なり、是も可なりとして總て之を歡迎し、遂に前述の如く當面の對策として、殆どあらゆる種類の經濟政策上の手段を列擧し來つて之が實行を政府當局に要求するに至れる實際的政治運動者の態度に至つては、實に其救濟せんとする禍源を實際に認識し居れるや否やを疑はざるを得ぬ樣に思はるゝ。是に於てか、吾々は先づ此等の所謂る輿論の先導者に對して問ひたいと思ふ。「農村問題の本源果して何れに在りや」と。

二

既に前にも述べた如く、我國の農村問題は可なりの古ひ問題である。所謂る農村の疲弊、即ち農村は目下疲弊しつゝある、今日に於て適當の施設方策を講ずるに非ざれば我農村は遠からずして行詰るであらう、頻死の困難に直面して破滅するの外あるまいといふ聲は、明治の中期初より大正の時代を通じて昭和の今日に至るまで常に世上に喧傳された所である。斯くて疲弊衰弱を訴ふること五十餘年然かも今日尚ほ全く行詰るに至らず、今日にも行詰らんかの如き氣息奄々の苦惱を訴えつゝ、依然として其存立を維持しつゝあるのを觀れば、年來の所謂る農村の疲弊は農村論者の空想か又は一種の錯覺に過ぎなかつたかといふに、必ずしも一概に然りとのみ斷言は出來ぬ。或時期に於て一見したのみの事實であるとすれば、それは錯覺又は空想に出づることもあらう。けれども數十年を通じ幾多の人々に依つて認められたことであり、又斷えず農村の在住者からも同樣の愁訴が聞かれつゝあることを考へれば、此間常に農村の多少の不滿があり、其生活に多少の苦痛のあつた事實は之を認めねばならぬ。斯くて從來常に多少の苦痛を訴えつゝあつた其苦痛が最近二三年間に於て更に一段の苦痛を加へ來り、之が爲に覺えつゝあつた疲弊が更に一段の疲弊を加ふるに至つたといふのが、最近の所謂る農村疲弊であり、最近の農村非常時對策問題の發端である。

然れば最近に於ける農村對策の目標が所謂る農村疲弊の救濟、農村經濟生活の改善に在るといふことは一見明瞭で、其間何等疑を容るゝの餘地は無い。けれども、單に疲弊して居るから之を救濟せねばならぬ、生活が困難であるから之を緩和せねばならぬといふ丈けでは、策の施し樣は無く、又最近の農村窮乏が從來の所謂る農村疲弊と異なつた性質のものであるや否やも明でなく、從つて今日新に策を立つるの必要あるや否やも斷言することは出來ぬ。言換えれば、現下の國民經濟的疾患が農村といふ其肩部の苦惱と爲り衰弱と爲つて現はれて居るといふこと丈けは判然して居るけれども、其苦惱と衰弱の由つて來れる病源が何れに在るやは明確にされて居らぬ。例令ば人間の身體に於て頭痛がするとか、食欲が無いとか或は胸苦しいといふても、其頭痛又は食欲不振は或は感冒から來る場合もあれば腦病又は腸胃の疾患から來る場合もあり、又胸苦しいといふことも種々雜多の病氣に伴ふものである。故に醫師の患者に向つて投藥又は施術をなさんとする場合には、各種の症狀から其病氣の性質を判斷して適當の處置を施すものであること前にも述べた如き次第である。然るに最近の農村窮乏に對しては、其窮乏の症候丈けは漠然ながら知られて居るけれども、窮乏の由て來れる源因如何に就ては、今尚ほ殆ど全く不問に付されて居り、唯、窮乏とか衰弱といふ漠然たる症狀のみに對して漫然之が處置施策に出でんとしつゝあるやの觀がある。是れ即ち種々雜多の政策の漫然主張され要求さるゝに至つた所以で、健全なる國民經濟發達の爲には實に危險此上もなき次第といはねばならぬ。

吾々の所見に據れば、我國現下の農村窮乏を惹起せる所の其根本原因には種々ある可きも、之を大別すれば、過去既に久しき以前より農村に伏在して其生活を脅かし、農村經濟を苦めて其順調なる發達を阻害しつゝあつた所の農村固有の慢性的のものと、最近兩三年の間に急激に我經濟社會の全般を襲ひ、其影響亦等しく農村に及んで、從來

苦しみつゝあつた農村の苦惱を更に一層甚だしからしめた所の全經濟社會に共通な急性的のものとの二種類がある。既往數十年に亘つて、農村の人民に疲弊の感を抱かしめ、農村同情者をして斷えず農村救濟の必要を叫ばしめたものは實に前者に屬する諸原因から生じた所の慢性的の疲弊であり、而して又最近兩三年間に於て殊に其疲弊の感を甚だしからしめ、之が救濟の必要を痛感せしむるに至つたものは、後者に屬する原因から急性的に發生した所の急進的衰弱である。例を人間の病體に取れば、先天的又は後天的の慢性的胃弱症から既往十數年來充分に肥滿し得ず、平素常に疲勞勝で充分に活動し得なかつた者が、一朝流行性感冒に犯されて更に一段の食欲不振と衰弱を加へ來つたといふが如き次第で、我最近の農村窮乏は恰も年來の慢性的疲弊と最近兩三年間の急性的疲弊との輻輳から生じたものと見る可きであらう。單に急性的の疾患のみならば縱令ひ其苦惱は相當甚だしいものがあつたとしても、爾餘の產業界即ち商業界や工業界の同種疾患と同じく應急的の施設に依つて其苦惱を緩和して病勢の經過を待てば、左したる心配もなからうし、又單に從來の慢性的疲弊のみであるとすれば、今日特に騷ぎ立てゝ應急的施設を云爲するの必要もなく、要は唯〻從來の治療法健康法を注意して實行す可きであつたであらう。然るに最近の農村は此慢性急性兩種の病症の併發に依つて其疲弊の症狀が頓に險惡の狀勢を現はすに至つた觀があるので、此處に特に再三の臨時議會までも開ひて先づ第一に之が應急的救濟處置を講じ、更に恒久的救濟策を更正確立するの必要を力說するに至つたと見る可きであらう。而して斯く解釋してこそ、最近に於ける朝野の農村救濟に對する慌たしい狂奔も正に意義ありといふ可きであらう。

けれども二重の疾患は何處までも二重の疾患である。縱令ひ其症候が同樣なもので、表面單に從來の苦惱が倍加したに過ぎぬ樣に見ゆるとしても、之が對策處置はそれ〴〵の疾患に對してそれ〴〵に之を施さねばならぬ。而して若しも兩者の對策に相衝突するものがあるとするならば、疾患の重きものに對して先づ適當の處置を加へ、其快癒を待ちて、然る後比較的輕き患部の治療を行はねばならぬ。故に今日の農村窮乏の對策を立つるに當つても、吾々は先づ其窮乏又は疲弊なるものゝ此二重性を認め、慢性急性兩方面の疲弊に就てそれ〴〵に其疲弊の實態換言すれば其緩急と輕重の實狀を明にせねばならぬ。而して出來得可くんば其疲弊の由つて來れる原因を明にし、其原因に向つて之が根本的刈取の手段を施すのが最も望ましい次第である。けれども農村の疲弊といふ如き一般的症狀の原因は複雜多岐で、一々之を明にするのは困難であり、又急速に詳細の調査を行ふことは事實不可能であるので、止むを得ず一般的應急的の對症療法を選むの外なしとするならば、少なくとも以上兩方面の原因から來れるそれ〴〵の疲弊の緩急と輕重の程度とは之を詳に見定めて然る後、それ〴〵に適當な對症處置を施す可きである。此意味に於て吾々は以下少しく我農村の所謂る慢性的疲弊と急性的疲弊の實態に就て述べて見度いと思ふ。

三

先づ慢性的の疲弊といふ方面から觀るに、我國年來の農村疲弊又は農村生活の窮乏といふことに就ては、吾々は從來常に多少の疑問を持つて居る。少なくとも此疲弊又は窮乏といふことを口にする人々の多數は其眞義を誤解して居るのでは無いかといふ感を抱いて居る。元來疲弊といへば以前よりも體力が衰へたとか筋肉が弱つたといふこ

とであり、窮乏といへば從前よりも物資が不足し生活が困難になつたといふことを意味する。故に農村に就て之を言へば農村人民一般の生産力が衰へたとか生活の程度が下降して經濟上の不滿不足が增加したといふことになる。要するに疲弊といふのは身心の弱つたことであり、窮乏といふのは物資の不足することに外ならぬ次第であるが、此意味に於て我國の農村は多年來常に疲弊しつゝ又は窮乏しつゝあつたかといへば、吾々は寧ろ其事實を疑はざるを得ぬのである。

人體の疲弊が體力の減耗や筋肉の衰凋又は活動の遲滯の上に現はるると同樣に、社會全體又は其一部分の疲弊も亦當該社會の人口減少とか生産力の減少又は生活程度の降下と爲つて現はるゝものである。先づ古來の實例に就て之を見るに、或産業又は或地方の疲弊した場合には第一に其産業に從事し又は其地方に住居せる人口の數が減少するのが常である。戰亂其他の事變の爲に住民離散して其地方が荒廢に歸したとか、領主の惡政の爲に四民窮迫して離散し、領内の産業爲に大に衰えたといふ例は我國古來の歷史にも其例少なからぬ所であり、又歐洲に於ても農村窮乏の爲に農村人口の著しき減少を見たといふ實例は十九世紀下半期の愛蘭や獨逸東部の一部地方にも之を見る所である。然るに我國の農村を觀れば疲弊窮乏の聲甚だしきに拘らず、未だ全般的に斯樣な事實は認められぬ。明治年代末迄は正確な統計が無いから數字的に之を立證することは出來ないけれども、明治四十三年以來の事實に就ては農會の農家に調査があり、之に由つて之を窺ふことが出來る。即ち此調査初まつて以來二十餘年の間我國の農家戸數は年々歲々幾分の增加を示し、例外的の一兩年を除けば每年二千戸乃至二萬戸を加へ、平均一年に五六千戸宛の增加を致して居る。勿論全國の人口增加、戸數增加に比較すれば、其增加數は少なく、從つて總戸數の割合よりいへば全國總戸數に對する農家戸數の割合は六割强より五割内外に減少して居るけれども、戸數よりいへば五百四十一萬餘か五百五十六萬餘に增加して居り、決して總數的の減少は示して居らぬ。此點から觀れば他の産業に比して進歩の程度が後れて居るとは言ひ得るかも知れぬが、我國の農業が從前に比して退歩したといふことは出來ぬ。

併し此人口の增減よりも一層明瞭に農村の興廢を示すものは農産物の增減である。農村が疲弊し衰亡する場合には、其地方の農産物は必ず減少するものである、然るに此點に於て我國の農村は全國を通じて之を觀る時は正に其反對を示して居る。主要農産物たる米穀、生繭等を初めとして小麥大麥其他の雜穀、馬鈴薯其他の蔬菜園藝産物、さては雞卵、獸肉其他の畜産物に至るまで、苟も生産統計の存する農産物は既往數十年來殆ど悉く增加の趨勢を示して居る。農産物の常として年の豐凶に依り其間多少の高低はあるけれども、前後五六年間を通じての平均收穫を觀れば、殆ど何れも累年的に增加を示さぬものは無く、唯、僅に稗粟等の如き下級雜穀に於て時に多少の減少を見るに過ぎず、中にも我國の主要食料品たる米穀は、明治三十年代末より最近に至る二十四五年の間に三割五分餘を增加して、其收穫は常に全國總人口の割合以上の增加率を示し、又輸出の大宗たる生糸の原料蠶繭の如きは最近三十年間に二十五割の産額を增加したといふ有樣にて、其他同期の間に七割十割の增加率を示せる農産物の種類は頗る多く、然かも其反對に産額の減少を示せるものは殆ど之を認め得ぬ如き次第である。農村の人口に著しき增加なく、而して其生産額に斯の如き增加ありとするならば、一人當り一戸當りの平均收穫は著しく增加して居るに相違

ない。而して又各戸當りの收穫が斯の如く增加して居るとするならば、縱令ひ農產物の價格の下落の爲に時に或は多少生活困難の狀を呈することありとするも、各農家にして其私經濟に留意する以上、由來主として自給自足の自然經濟に依るを例とせる農家の常として、甚だしく生活の窮乏に陷り、疲弊衰弱に倒るゝ樣なことは無い筈である。要するに經濟界の變化の急激なる現代のことゝて、其間多少の窮厄に陷れる人々があるにせよ、農產增加、收穫增進の此事實より觀る時は、吾々は我國の農村が一般的に疲弊に陷り衰微に赴きつゝありとは、如何にしても之を信ずることは出來ないのである。

我國の農村が一部論者の主張する如く、益〻衰微しつゝあるもので無い次第は、又一面には我農村人民の生活程度の向上狀態からも之を親知することが出來る。農村が眞に疲弊せる場合には農民の生活程度は從前よりも失墜して衣食住は粗惡と爲り、榮養は不良と爲り、子女の敎育なども著しく退步して行くものであるが、我國近來の農村には未だ斯樣な事實は認められぬ。唯〻生活程度の向上又は失墜といふことは人口の增減や生產の盛衰などの樣に統計的に之を示すことが困難であり、又近頃屢〻云爲せらるゝ家計調査などの統計に依り其一端を親ふことが出來るとしても、大部分自給自足の自然經濟に衣食する農家の家計調査は決して正確なる數字を得難く、從つて之を根據とする家計統計は到底的確に其生活程度を示すものとはいはれぬ。其處で農村生活の程度を判斷するには、目下の實狀では、唯〻幾多の人々の達觀的に觀察せる事實を根據とするの外は無い次第であるが、斯る達觀的觀察よりして吾々は最近數十年の農村生活を益〻退步しつゝあつたといふことが出來るであらうか。

農村の爲に其疲弊を力說せんとする人々は、斯る立場よりして、近來頻に、所謂る農村の哀話といふ樣なものを蒐集し、貧乏の爲めの少女の身賣り、樹根木皮の食用、文字通りの破屋に藁の褥、寒天に小學兒童の徒步、缺食等あらゆる悲慘な事實を擧げて、之を天下に訴へんとし、中には態々其食用なる木根樹皮などを朝野知名の人々に送來つて其實を示すに努めて居る人も見受けらるゝ。農村救濟の爲に誠に親切至極の次第ではあるが、併し是等の哀話が果して農村一般の疲弊の證左といひ得るであらうか。斯る事實の今日實在せることは吾々も亦勿論之を認むる。而してそれが哀む可き次第であることも亦決して之を否むものでは無い。けれども斯る事實は果してそれが最近に至つて初て生じたことであるか。將た又斯樣な事實が最近に於て著しく增加したことであるのか。吾々の見聞する所を以てすれば、斯る哀話は古來常に農村に將た又都會にも多少は存在した事實であり、如何に隆盛に赴きつゝある社會に於ても多少の實在は免れ得なかつた事實である。幾多の農村幾多の地方に關して今日漸く喧傳さるゝに至つた此種の哀話哀史の大部分は、吾々の知れる範圍に於ては決して最近に初まつたことではなく、從來常に存在した事實であり、寧ろ既往幾十年來漸く減少しつゝあつた事實である。決して之を以て此等の地方が多年來益〻疲弊に赴きつゝあつた結果といふことは出來ぬ。唯〻此等の地方此等の農村が他の地方殊に都會の地に比して生活程度の低い證左といふことは出來るであらうけれども、其地方其農村の經濟的退步の實證とすることは出來ぬ。

斯る斷片的の挿話的事實よりも一層明瞭に吾々の耳目に觸るゝものは農村一般の衣食住の進步であり消費の增進である。農村人民の生活は今尙ほ一般に淳朴で、都市住民のそれに比し概して低いのが常であるとはいへ、之を二

十年前三十年前に比すれば、衣食住共に著しき進歩を示して居る。農村人民殊に其青少年者流の服裝が年々歳々華美に赴きつゝあり、其材料の品質並に種類が二三十年前のものに比して著しく高級高價のものと爲つて居ることは、苟も往時の農村生活を觀察したことのある人々の何れも首肯する所であらう。住居の狀態は衣服ほどに顯著な變化は認められないけれども、交通の發達と共に其建築材料や室内設備乃至器具などに改良進歩の見る可きものは勿論であり、又食物飲料などにも著しき向上と進歩とが認めらるゝ。殊に麥や稗乃至粟などを主食とした者が米飯を常食とする樣に爲り、副食物に魚類や種々の新蔬菜の著しく增加した實例は各地方の寒邑僻村にも廣く見受ける所である。其他農村人民の子弟教育に投ぜらるゝ費用は大に增加して、小學教育の普及は勿論、農村より中學及び高等の專門學校に學ぶ者の數は著しく增加し、農村青少年の各種の娯樂、見學の旅行等亦大に進み、其智識と趣味の發達は往時の農村を見たる者をして一驚を喫せしむる程である。要するに農村人民の生活程度は其欲望と共に從來漸次に向上增加し來り、而して其向上增加は之が滿足の爲に更に一段の苦心と努力を要するので、其子弟の欲望滿足は常に父兄の心勞の因と爲り、農村の父兄をして從來常に「近頃の若者は贅澤で困る、此分にて進まば、農村は倒産破滅の外はあるまい」と喞たしめたものであるが、其父兄をして斯の如く喞たしめた當年の若者は其後自ら父兄と爲つて更に同樣の喞言を繰返して居るのが農村の現狀である。斯の如く世々代々益〻贅澤と爲り益〻其欲望の加はりつゝあつた若者が、相次で先代よりもより多く其欲望を充たしつゝ、然かも尙ほ未だ全く行詰るに至らず、一般農村が依然として其生活を續けて行くことの出來るのは、畢竟其生產力が進んで、能く向上した生活程度を維持しつゝあるの證據といふ可きではあるまいか。觀じ來れば此點に於ても農村の生活は進歩の徵こそ見ゆれ、決して疲弊退歩の跡は見受られぬのである。

其他、農村の租稅負擔力から觀ても國家非常時に示せる其活動力から觀ても、我國の農村が多年來逐次疲弊し衰弱しつゝあつたといふ證左は少しも見受けられず、却つて其反對の事實が窺はるゝ。果して然らば數十年來の所謂る其慢性的疲弊は事實無根であるかといふに、必ずしも然りとのみ斷言は出來ぬ。成長期にある人間が一定期間に於て多少の成長をしても其成長の程度世間並に及ばず、他の同輩に比して身長又は體重の增加が少ない場合には、其人は縱令ひ絶對的に衰弱したと言ひ得ないまでも、比較的には衰弱して居ると言ひ得るし、又左樣に感ずることのあるものである。我國近世の農村疲弊も亦正に此類で、明治初年以來、我國の經濟社會は各方面共著しき發達を遂げ、中にも商工業、運輸交通業などの發達は頗る顯著なるものがあつたのであるが、之に比すれば各地方農業の進歩は遙に之に及ばず、農村の發達は前述の如く相當のものがあつたに拘らず、商工業地たる都市の發達に比すると其進歩は遙に後に瞠着たる有樣であつた。其次第は前に列擧した諸點、即ち人口の增加、生產の增進、生活程度の進歩乃至租稅の負擔力等何れの點から觀ても明に認めらるゝ次第である。而して此一事既に農村の人々をして自身恰も疲弊衰弱せるが如き感を抱かしむるに充分であるのに、更に生活程度の向上と欲望の增進とは、從來よりも一層多くの收入、從つて一層多大の努力を必要とするものがあり、然かも其努力の結果たる收入の增加は商工業に於けるが如く容易に急速に望み難く、殊に我國の如く集約的經營の進んだ農村に於ては一層其收入增加が困難であつ

たが爲に、其苦心努力は特に著しきを加へた感があり、一層疲弊の感を甚だしからしめたものである。故に我國の農村疲弊は、其慢性的方面から觀れば、絶對的の疲弊衰弱は無いといふことが出來るけれども、相對的比較的の疲弊は實在するといふことが出來るし、又農村人士をして斯る感情を抱かしむる丈けの原因は存するのである。

年來の農村疲弊に關する以上の所見は十數年前農村問題の漸く喧しきを加へ來れる當初に於て吾人の屢力說した所であつて（拙著農村問題第二章第一節參照）、今日も尙ほ此所見に誤は無いと信ずる。

四

然るに我經濟社會に於ける此慢性的疲弊患者の症狀は最近の二三年間に於て甚だしく惡化して來た。而して熱心なる農村救濟論者の言に徵すれば、今や氣息奄々正に瀕死の重體に在り、至急に適當の處置を施すことなく此儘に放任して置くならば如何なる急變の勃發するやも計られぬ狀態であるといふ。症狀の變化最近の事に屬し、慢性的疲弊の場合の如く之が實狀を確む可き統計的材料も未だ之を明にするに至らず、唯、各方面に現はれた外觀的の事狀や農村先覺者の陳述に照して其症狀を判斷するの外ない次第であるが、兎に角各地方に納稅不能や債務不履行が夥しく現はれたり、肥料の購買力が減少して其消費が著しく少なく爲つたり、敎員給料の不拂や缺食兒童の數が著大の增加を示すなど、昨年以來の農村哀話が頗る增加して然かも其事實が從來の哀話の如く一部個人に關するものでなく、廣く一村一鄕乃至一大地方全般に關するものである點から觀ると、最近兩三年間の農村疲弊は確に從來の慢性的のものとは大に性質を異にし、確に積極的に一般の衰弱を加へた疲弊の樣である。

然らば此衰弱、積極的に體力の消耗を加へた此疲弊は何から起つたのか。從來徐々に疲勞し來つた衰弱が、急に一段の疲勞を加へたといふならば、それは既往と同一の病源から來た疲弊が疲勞の累加に依つて加重したものと見る可きであらう。けれども、從來緩漫ながらも逐次生長發達しあつた者が一朝急變して生長發達の全然止まれるのみならず、却つて益〻疲勞衰弱を增したといふならば、其處に從來の疲勞の原因とは異なつた何等か他の原因が伏在するものと見ねばならぬ。現下の農村論者は多く既往の疲弊が累積し來つて最近愈〻甚だしく爲つたといふけれども、吾々の所見を以てすれば、最近の疲弊加重は從來のものとは全く異なつた原因から來て居る。而してそれは外でもない。一般的の物價下落である。最近の農村不況に對して眞面目に其實狀を討究せる參考資料は、殆ど何れも之が主因として農產物の市價暴落と農家の收入激減を擧げ、而して其結果として納稅の不能、債務決濟の不能、肥料代其他の不拂、敎員給料の不拂、農村中高等學生の減少等を指摘して居るし、又最近に於て農村救濟の聲喧しく猛烈なる其運動の起つたのも、最初は絲價繭價の暴落に伴ふて先づ長野其他の養蠶地に起り、次で米價の大下落に伴ふて其運動が翕然各地方に波及して居るなど、正に此事實を物語るものである。

物價の下落は常に消費者に依つて歡迎せらるゝ所であるが、生產者に取つては一般に大災厄であり、大不安の原因である。而して其下落が急激であり、且つ前途の見込の付かぬ場合には殊に其困難も甚だしいもので、一般に損失加重し倒產癈業又は生產減少等の經濟的災害相次で起るのが常である。蓋し生產者は豫め一定の市價を豫想し、之を標準として先づ相當の生產費を投ずるものであるから、其生產物の市價が一朝下落の趨勢を辿る時は豫想の費

上高を得る能ずして損失するの外なく、此處に倒産するか若しくは廢業乃至生産減少の擧に出づるは當然の成行である。其結果何れの産業に於ても生産者の生活困難、疲弊困憊を見るのは言ふ迄も無い次第である。

併し一般的の物價下落の影響は商工業者よりも殊に農村人民に依つて遙に著しく感ぜらるゝものである。蓋し物價が一般に下落の風潮を示す時は自家の生産物と共に其生産又は消費の爲に購入する物品も概して下落するものであるから、一般的の物價下落は結局其實收入實生活の上に何等の影響も無かる可きやに感ぜらるゝが、併し其下落の際に於て商業家は下落と見るや直に其仕入品を廉賣し去つて新に廉價の仕入を爲すことが出來るし、又工業家は需要に應じて直に生産縮少の方針を取ることも出來るので、農業者よりは割合に迅速に之が對應の處置を取ることが可能である。然るに農業者に至つては、作物に依りて收穫に先だつこと或は半年乃至一年、桑園茶園、果樹園等に在つては數年乃至十數年の以前に於て豫め生産の方針を定めねばならぬし、又水田の如く用途の一定せるものに在りては如何にしても其作物を變更することは出來ないので、勢ひ變に應ずるの處置は容易で無い。加ふるに商工業に在りては其經費の大部分は購入に依るものであるから一般物價の下落と共に、其支出も自ら大に減少するのが常であるけれども、農業殊に我國の如き小農業に在りては經濟上の支出は肥料代の外殆ど擧ぐるに足るものなく、從つて物價下落の爲に減少する支出は頗る僅少に過ぎざるに、收入は大に減少し、然かも農家支出の一大部分を占むる租税其他の公課と經營負擔の大部分たる生産的債務の元利支拂は毫も減少する所は無いのである。就中租税公課の負擔加重は由來其負擔の割合商工業者に約二倍するといはるゝ我農業者に取りて殊に過大の重荷を加へたものといふ可く、此一事丈けでも元來虚弱にして發育力の弱い我農村を疲弊衰弱に向はしむる原因であるに相違ない。然かも一般物價に準じて當然引下げらる可き鐵道運賃の据置は肥料の購入、農産物の販賣に一段の課税を加へたと同樣、同時に農家の支出の增加と收入の減少とを來たして、以て其疲弊を一層甚だしからしむるものである。

此點より觀れば、緊縮一點張りの濱口内閣の財政々策と單純なる金融的見地一點張りの低物價政策とは世界的不況の大勢に柏車を加へた樣なもので、左なきだに既に下落の趨勢に向はんとせる一般の物價を急激に暴落せしめ、あらゆる生産業者の大困難大狼狽を惹起したものである。物價の下落も徐々として進めば、注意深き生産者はそれ〴〵に豫め之に對する準備をすることが出來、從つて甚だしい困難を惹起せずして濟まし得るものであるが、最近三年間に於けるが如く、莽年ならずして多數の物價が半減又はそれ以上の下落を來たすが如き有樣にては、如何なる生産者と雖も到底之が對應處置を取り得るものでは無い。從つて此金融政策財政々策の爲に大打擊を蒙つたものは決して單に農村のみでは無い。中小商工業者も大商工業家も等しく大打擊大損失を蒙つて居る次第は、甚だしき苛斂誅求の實狀あるにも拘らず、主として大商工業者の負擔に屬する所得税や營業收益税の甚だしく減少せる事實に徵しても窺知せらるゝ。唯、經濟的抵抗力の比較的强大な大商工業方面に於てこそ生活困難救濟要求の叫は今尙ほ聞ゆるに至らないが、經濟能力の稍〻薄弱な中小商工業方面からは農村と同樣に救濟要求の聲が高まつて居り、又國産保護、保護關税實施産業統制助成等の要求は一面から觀れば大工業者方面の救濟の要求と聞取れぬことも無い。一國の産業全體の利益からいへば最近の如き世界的大不況に向ふの際に於ては、先づ正貨の自由輸出入に制限を加

へ又外國品の輸出入にも適當の制肘を加へて國内に於ける一般物價の平準を可及的平靜に保つに勉め、以て只管平穩なる經濟界の運行を助長す可きものなるに、濱口内閣の當路者は恰も此方針に逆行して、從來稍〻高位に在りたる我國物の物價を左なきだに下落の趨勢に赴かんとせる英米の物價に無理に追從せしめんとした。而してそれが今日の不況不安を將來した原因である。

然れば最近の物價大暴落に伴ふ不安や疲弊は決して農村に限れるものでは無く、一に全然産業の盛衰を無視せる近視眼的財政政策通貨政策の結果で、其影響は各産業各方面一般に及ぶものである。然かも唯〻從來餘り裕でなかつた農村方面は前述の如き農村特殊の事情からして之に對する處置が他の方面ほどに敏活に行屆き難く、且つ其負債は商工業方面よりも一般に長期のものが多いので、殊更其元利支拂に困難を感ずるといふ如き次第で、特に其弊害を痛感するのである。之を例ふれば等しく流行性感冒に罹つたけれども、平素餘り頑健で無い爲に其高熱の苦痛を感ずることが他の強壯者よりも甚だしいと云ふ如き次第である。

加ふるに、生活程度の向上は何人にも頗る容易であるに反して、其引下は大に困難を感ずるものである。而して此苦痛は平素其生活の不足を感じつゝあつた者に取つては殊に甚だしいのを常とする。然れば從來常に自家の疲弊を感じ商工業從事者に比して自家の生活向上の不足を痛嘆しつゝあつた農村の人々が、此急激なる大不況に際して等しく其生活程度の失墜を强要さるゝに當り、特に其經濟的苦痛を痛感するのも亦自然の勢といふ可きであらう。

今日の農村疲弊感が一面に於て斯る神經性的痛苦の性質を有するは疑もなき次第であるが、更に他の一面に於て此神經的痛苦の感を一層甚だしからたるものは從來の政治家の無責任なる言動である。近來の政治家は在朝在野の別なく、只管選擧人の意思に迎合せんとせるの結果、農村人士に對しては、口を開けば農村問題の解決を誓ひ、朝に立たば農村の救濟に盡す可きを約するといふ有樣であつた。而して淳朴なる地方農民は彼等の言を信じ其實行の日を待ちつゝあつたのに、然るに其人の朝に立つや常に場當り的の苟且策を試むるの外、何等實際的の效果を擧ぐるの策に出でず、最近の非常時に及んですら毫も苦痛緩和の實を示すに至らない。一時凌ぎの慰言に空頼みしつゝあつた患者が其苦痛の益〻加はれるに及んで、一入甚だしく其苦痛を感し、斷乎たる治療を要求すると同樣、最近の農村人士が憤然蹶起して頓に其痛苦を訴へ、斷乎たる對策の樹立を要するに至つたのも實に無理ならぬ次第といふ可きであらう。

斯くて最近に於ける農村の疲弊は正に著しく其苦痛を加へ來たつたものがあるには相違ない。けれども其苦痛又は疲勞の急進せる原因は前にも述べた如く、決して農村其物に在るのでは無く、全く一般の物價暴落といふ國民經濟全般の裡に存するのである。

五

上來の所述に依つて之を觀れば、我國農村の現下の疲弊は一種の慢性的の苦患の上に、更に一種の急性的苦惱の加はつたものである。而して慢性的のものは一種の疾患といはんよりも寧ろ一種の體質とも稱す可きもので、其原因は全く農村特有の素質の裡に存するに反し、急性的のものは正に一種の疾患一時的の變狀と稱す可く、其本源は農

村以外に存し、其症狀は廣く一般經濟界を犯して居る。例令ば平素胃腸又は心肺等身體の一部分が虛弱であつた人が感冒にかゝり高熱を起したが爲に、其虛弱局部に特に苦惱を加へたといふのが今日の所謂る農村の疲弊である。農村の疲弊が斯の如く兩種の方面に其原因を有する兩症併發の如きものであるとするならば、之に對する緩和救濟の方策も亦其原因に應じてそれ〴〵に適當なものを選定せねばならぬことは勿論である。

今熟ら〳〵慢性的疲弊に對する救療手段を觀るに、其疲弊なるものが前述の如く絶對的の疲勞や衰弱でなく、單に比較的の疲弊、換言すれば發育發達の不充分に過ぎぬ以上、其發達を助長するの手段を講じて發達不足に對する不滿と不安を除去するに勉むる外に其途は無い。即ち其經濟的發達が不充分で、他の地方他の產業のそれに及ばぬといふことは要するに農業の收入が割合に少なく且つ其增加增進が困難であるのに基因し、搗てゝ加へて農家の經濟に貨幣經濟要素の加はること愈〻多きに從ひ、市價の變動に連れて其經濟が益不安を加へ來たことも亦一大原因であるのである。故に此等の原因に出づる農家の苦痛を緩和し其不平不滿を減ずるには、從來我當局の實行し來つた種々の農業政策、即ち農業生產組織の改善、生產の增進並に農產物の市價調節を目的とする各種の手段を誠心誠意實行するの外は無い。農業の收益增加の困難や、農產物の市價變動の頻發など、農村の不平不滿の一部分は農業本來の特質に其因を有することで、從つて之が徹底的排除は事實至難であり、又之が排除を目的とする對策も其效果は到底完全を期することは困難なるに相違あるまいけれども、極力之に盡せば少なくとも相當の對症的效果は之を期することが出來るであらう。性來の虛弱患者に對する醫療と同樣、可及的の健康助成法を施して徐々に其發達を待つの外は無い。

然れば吾々は此年來の慢性的疲弊の救療に關しては今日新に我政府當局に望む所は無い。唯、特に望む所は適當と認めた從來の政策を徹底的に實行することである。徒に策の種類の多きを求めて何れも其實行の不徹底に終るは決して策の得たるものでは無い。然るに此點に於て從來の政府當局の態度は頗る遺憾なきを得ぬ。今一々其例を擧ぐるの遑を持たないが、例へば最近の米價調節、糸價調節の手段の如き何れも其類である。此等の調節策は其施設の躊躇逡巡頗る不徹底なりしが爲に、却つて其市價變動の前途の豫測を困難ならしめ、市場を攪亂して農村の生活を不安ならしめたるやの感なきを得ぬ。政府の全力を擧げて適當と認めた市價を固持するに勉めたならば、其效果は相當なものがあつたであらうと思はるゝ。

それから今一つ、農村疲弊救濟の見地から觀て、政府當路者に望む所は、農村人民に對して貨幣經濟的施設を强要せぬことである。例令ば國稅地方稅を初め各種の公課の全納を初め、一定の敎育施設衛生設備の强要など何れも直接に貨幣經濟を强要したものであり、又灌漑事業や耕地整理の奬勵、各種產業團體の促進等は間接に之を要求せるものであるが、此等の施設其物は勿論推稱す可きことであり、效果も亦決して少なからぬに相違ない。けれども此等の事業の經費の爲に農村住民の往々困難することは都會人士の想像だも及ばぬ所で、現に最近の農村疲弊の叫も其一大部分は實に此等の施設に伴ふ公課や債務の負擔の困難に端を發して居る次第である。由來我國の農村生活の大部分は今尙ほ自給自足の自然經濟であり、各農家は各其自給の餘剩を貨幣に代へて之を公租其他の貨幣經濟的

方面の用途に充つるのである。而して自然經濟に衣食する限り、其生活に大なる進歩は無くとも、其一面に於て大なる不安は無い。併し欲望の進歩生活程度の向上に從ひ、其經濟の貨幣經濟に屬する部分が自ら增大して行くのは自然の勢であり、又それが漸進的に農家各自の自覺に伴ふて增加して行くのは農村生活の進歩の爲でもある。故に吾々は一部の保守論者の如く、農村人民の生活を常に自然經濟に終始せしめよと主張するものでは無い。けれども農村人民各自の未だ充分に之が眞價を悟らず充分之に慣熟せざるに、他より强ひて之を奬勵し若しくは半强制的に之を實行するのは頗る危險であると信ずる。然るに我當局從來の態度は强ひて之を强要したかの觀がある。國稅地方稅に就ては勿論其必要があつたであらうけれども、斯る必要のあるのは僅に其一部分である。現に學校の設備や教員の給與、土木衞生の施設などには、今日の如く嚴格に貨幣經濟に據らなくとも、自然經濟に依つて處理し得る點が尙ほ少なからぬやに思はるゝ。然るに全國劃一的に之を强要したればこそ、此處に幼稚な農村に公課負擔苛重の嘆を甚だしからしめたのである。其他道路改善、堤防、土地開墾、排水灌漑等の生產事業土木事業を負債に依りて實行せしむるなど亦其例で、事業其物に非難す可きものなくとも、之が貨幣經濟的遂行は地方に依つては後害を胎すの因たるを免れぬ。要するに農村經濟の貨幣經濟化は一般農村人民の經濟的自覺と共に漸進的に之を行ふ可きもので、此點に於て從來の當路者の施設には遺憾の點が少なからぬ樣に感ぜらるゝ。

此點に關聯して更に一言し度きは各種の農事改良や經濟の改善に關する官僚の所謂る指導である。指導が眞の指導に止まり、其指導せる處置方法の採否が實際に農民各自の自由採擇に委せらるゝならば、吾々も亦何等の異議は無い。けれども官僚的指導の常として其指導が事實上正に指揮と爲り一種の命令と爲るのは吾々の屢〻目擊する所である。元來農事の改良や組合の組織など何れも當事者に於て充分に其眞義眞價値を理解し、自發的に之が實行に從事してこそ初めて其效果の擧がるものであるから、命令や誘導に依る其實行には效果の伴ふことなく却つて費用倒れと爲る場合が多い。此點に於ても吾々は農務行政の當路者に一段の反省を促さゞるを得ぬ。聞く所に據れば近々政府は農村改善の主要手段として農村計畫指導機關を設定するの意ありといふ。眞に結構な企圖であるけれども、其指導當局に對しては、吾々は特に從來の官僚的指導の弊に陷ることなく、眞に農村人民の自發を促がし、其自治的改良を促すの一事に全力を注がんことを希望せざるを得ぬのである。

六

年來の農村疲弊は農村特有の現象で、之に對する處置は農業政策上の施設以外には無いが、最近に發生した急性的の農村疲弊は、既述の如く一般經濟界に起つた物價暴落といふ大激變の一餘波に過ぎぬ。世界一般が不況に向ひつゝあるの際に於て、我國の當路者が特に極端なる通貨收縮の政策を採用した其結果、此處に急激なる信用の萎縮と之に伴ふ一般諸物價の大暴落を惹起し、其影響の農村に及んだのが最近の急進的疲弊である。故に之に處するの對策としては特に農村に限れるものは無い。一般經濟界の安定と振興とを目的とする物價政策、金融政策乃至產業保護の政策に之が救濟を待つ可きものである。

生產業者の立場からいへば市價の下落は大なる苦痛に相違ない。けれども下落一度其勢を停止して價格の安定を

見るに至れば、更に改めて之に處するの生産方針を確立し、此處に更生の途を求むることが出來る。故に生産業者に取つて苦痛なのは下落の事實其物に在りといはんよりも、寧ろ下落の趨勢、即ち其前途の不明なるに基づく不安に在るのである。此不安あるが爲に當業者は進んで生産の遂行を爲すに躊躇し、萎縮退嬰損失加重して産業界の不況を現出する次第であるから、一般的不況を打開するの方法として先づ第一に必要なことは、物價下落の趨勢を阻止して之が安定を圖ることであらねばならぬ。物價の平準安定して復た下落するの懸念なきに至らば、生産者各自の自力更生の基礎は此處に確立し、信用の途亦自ら恢復して、縱令ひ緩漫ながらも、産業界の復興は其緒に就くに至るであらう。併ら生産業者は又一般に債務者の地位に在るのが常であり、從つて物價下落後に於ては其債務の辨濟が頗る困難で、自力更生に支障を感ずるのが例であるから、最近の如き急激なる大暴落の後に於ては、單に物價の安定許りでなく、其安定點を多少引上げて、以て既往に於ける債務の負擔を輕減するに勉むることも亦目下の急務といはねばならぬ。要するに一般物價の安定と相當程度の其引上を策することは、農村を初め我現下の經濟界一般の振興を目的とする應急對策の眼目といふ可きであらう。

然るに物價水準の安定も一般物價の引上も、之が手段を政策の方面に求むれば、適當なる通貨政策や金融政策ほど有效なものは無い。適當なる通貨の膨脹と信用の開放とは一面に於て事業の振興を促し、他の一面に於て需要を促すに最も有効なる手段で、物價の下落を阻止し其昂騰を促進するの效果あるは疑なき所である。前の政友會内閣並に現内閣の當局の狙つた所は正に此點で、前内閣の當局が成立當初に先づ金の輸出禁止を斷行して、通貨收縮の途を斷然閉鎖す可き方針を示し、爾來一方には資本の國外逃避の策を立つると共に、他の一面に於て兌換券發行限度の擴張、不動産資金の融通、低利資金の增加、負擔整理の助成等只管金融疏通の手段を講じたのは正しく其方法を得たものといふ可きであらう。けれども通貨膨脹及び金融の便宜に依る物價趨勢の變更は即時に顯著な效果を示すものでは無い。資金融通の便宜が物資に對する需要の增加と爲り、其增加が從來の物價の大勢の上に影響を現はすのは、少なくも數月多くは兩三年の歲月を要する。舊臘犬養内閣出現して政策轉換の方針明にせらるゝや、即時の景氣恢復を豫想して强氣に驀進せる投機者流が、其後事業界の振興の遲迂たるに失望して、此處に所謂る犬養景氣に一時の反動を來たしたのは正に斯る事情に基因する。然れど當時の經濟政策方針轉換の效果は決して空しきものではない。爾來今日に至つて徐々ながらも明に其結果を示しつゝあるのである。

要するに最近の農村疲弊は勿論其他の方面の疲弊沈衰も直接の原因は最近の急激なる物價下落の實に在つた。從つて此原因にして一度除去せらるれば、苦惱は此に停止して衰運は恢復に向ふのである。現に最近に於ける農村救濟運動の發源地であつた養蠶地方や製糸業者など、今や糸價の騰貴に著しく其窮狀を緩和され、又農村一帶も米價の多少恢復せる爲め舊臘に比して稍〻愁眉を開けるやの觀があるが如き始末で、一般物價引上策の效果は今後も尙ほ相當に現はれ來るに相違ない。然れば斯策の實行は今後尙ほ引續き大に望ましきが如くであるが、併し實際は必ずしも然りと云はれぬ。物價の昂騰は動〻もすれば投機を激成して終には經濟界を擾亂に導くの虞があり、殊に銀行券の兌換を停止して、價格の標準を一定の實質價値に求めず、通貨政策當局の任意に之を一任する場合に於て

は、動、もすれば景氣驅進の希望に驅られて、通貨の大增發と爲り、物價の大暴騰と爲つて財界の危機を釀成するに至るの危險が多い。物價の暴騰は其暴落と等しく、共に經濟界の利益では無い。物價に望む所は適當の程度に安定することである。從つて近時の通貨膨脹、物價引上の政策も、其效果が生產當事者をして不安を去り、安心して自力更生の緒に就くを得せしむるの程度に達したならば、速に之が續行を停止し、其以上に進まんとする物價の騰貴は可及的之を抑制するの處置を取らねばならぬ。現下に於ける物價引上の政策は、吾々は尙ほ之に贊するに躊躇せぬが、心配する所は今後適當の時機に之を停止するの一點に在る。是れ實に吾々が將來の當局者に對して特に深甚の注意を望んで止まぬ所以である。

併し通貨政策や金融政策が前述の如く即時即刻に物價引上の效果を現はさぬのを見るや、一部の性急な論者政客は更に一層即效的な救濟施設を適當に要望し、當局亦其要求を容れて、失業救濟、需要促進、並に物價引上を目的に、新に種々なる土木事業其他の國家的事業を計畫實施せんとするに至つた。最近の臨時議會に提案決議せられた此種の事業丈けでも國庫支辨一億四千萬、之に地方の支出を合すれば本年度丈けに於ても、總額二億六千萬餘圓の支出に上るといふ。斯る新事業の遂行が幾多の需要を喚起し幾多の所得增加を惹起して一時の景氣振興に資するは勿論であり、從つて我經濟社會殊に農村の疲弊が幾多人士の所言の如く窮乏其極に達し一日も看過す可らざる慘狀に在りとするならば、當面の應急策として之が救濟に相當の效果があるであらう。吾々は必ずしも絕對的に之を否認するものではない。けれども斯る事業は到底永く繼續的に之を行ひ得るものではなく、又之に要する經費は一時は公債に依り通貨の膨脹に依りて之を得るとするも、結局は國民全般否な納稅者の負擔と爲つて他日之を各人の囊中より支出せしめねばならぬ。換言すれば今日の安易は將來の負擔と爲る次第であるから、將來を考慮せず漫に之に謳歌するは吾々の取らざる所である。加ふるに斯る事業を過大に實行する時は一面には物價騰貴の因と爲つて、經濟界の激變を招き然かも一面に於て兩三年の後其事業の終了期に至れば多大の失業者を生ずるの激變を見ねばならぬ危險があり、又此種救濟事業の常として、失費徒に嵩みて效果之に伴はぬ憾がある。故に此種の事業は餘程切迫せる場合でなければ漫に之を企つ可きでなく、又危急の必要に迫られ之を企畫するとしても、其企畫は事情の許す限り最少限度に之を止め、其必要の緩和に應じて漸次に之が縮少を計る可きである。要するに此種の救濟施設は何れも危急の患者に對する應急注射の如きもので、唯、之に依つて一時其衰弱を防ぎ、自力更生の實力の備はるを待つの處置に過ぎぬ。決して之が續行に依つて恒久的の經濟發達の實力を增進し得るものでは無い。此點より觀れば農村救濟の聲喧しく世間の同情亦農村に集まれる現今の狀勢に乘じて、火事場泥坊的に恒久的の農村救濟手段を當局に迫らんとする一部政客の態度は吾々の最も贊成し難い所である。否な非常時の應急對策に依りて恒久的の農村疲弊を救濟せんとする其企劃には多大の危險を認めざるを得ぬのである。

七

我國現下の農村疲弊は要するに急性慢性兩樣の疲弊の併發であり、其疲弊の原因も亦兩樣の方面から來て居るので、之が救濟の施設も此等兩面の原因に應じて之を選ばねばならぬこと、上來所述の如くであるが、併し此等救濟の

施設は何れも對症的救濟手段の範圍を脱せぬ。殊に急性的疲弊に對する施設に至つては全く應急的施設の性質を有するもので、之に依つて疲弊の根本的恢復を望むが如きは全然望まれぬことに屬する。人間の病氣恢復の原動力が一に患者其人の體力活力に在り、如何なる施術、如何なる投藥も體力活力の全然消沈し切つた患者を全快せしむるに由なきと同樣、凡て經濟政策上の救濟施設はそれ自身に蹶起更生の意氣なく奮鬪力なき階級又は地方の疲弊衰亡を救濟し得るものでは無い。政策的施設は畢竟當業者各自の自力更生の努力に便宜を與へ、之が障害を除いて其努力を助長するの效果あるに過ぎぬ。最近産業界各方面の人々が漫に政府の救濟を叫んで、各自の疲弊恢復を只管之に依頼せんとするの風あるに對し、現内閣の當局者が自力更生の必要を力説せるは、正に此平凡なる眞理を喝破せる至言といふ可きである。

更に又經濟政策上の施設は社會の一部に利益を與ふると共に、他の部分には多少の不利益を及ぼすものである。例令ば米價の引上が商工其他米穀の消費者の負擔を加へ、保護關税の實施が當該輸入品の購買者を苦め、各種の保護奬勵の失費が納税者一般の負擔を增すが如き次第で、畢竟此種の施設何れも共存共榮の爲に社會の他の部分の利益を犧牲として其一部分を保護するに過ぎぬからである。故に一部分の保護救濟過大に亘る場合には其部分の享くる利益は大なるものあるも、他の一面に於て之が爲に新に疲弊に陷り更に救濟を必要とするが如き部分を生ずるを免れぬ。此點に於ても經濟政策の施設は一般の醫療處置と頗る類似し、醫家の投藥又は施術が其適度を超ゆる時は、當面の苦痛其物は緩和せらるゝも、之が爲に或は他の局部に疾患を生じ或は豫後の恢復に異狀を惹起すると同樣の結果を生ずる。故に現下の疲弊救濟に際しては吾々は當面の救濟に沒頭して徒に過大の施設に馳することなく、能く他の方面に及ぼす其影響と後世に遺す其負擔とを考慮して其適度を誤らざらんことを當局者に希望せざるを得ず。角を矯めんとして牛を殺すが如き施設は思慮ある爲政家の爲す可らざる所である。

加ふるに我農村最近の疲弊は少なくとも其一大部分が一種の神經病的性質を有するやの感がある。神經質の人は、之に接する者が相次で「君は病氣の樣である、否な確に病氣に罹つて居る」といふ場合に、動〻もすれば自己自ら病氣なりと信じ、遂には何等實際の疾患なきに病氣の疲勞を感ずるに至ることがある。目下の我農村も亦多少此神經患者の狀態で、由來自ら其發達の他に及ばぬを感じつゝあつた農村が、其先導者達から許りでなく、更に他の政治家、論客さては在朝の當路者からも亦繰返し〳〵「疲弊せり窮乏せり救はずんばある可らず」との言を聞くに及んで、殊更に甚だしく自己の疲弊を痛感するに至れるも無理ならぬ次第である。而して此痛感の結果は漸次自ら自己自立の力量を疑ふに至り此處に之が保護救濟を一に政府に求むるに至つたかの樣子が見受けらるゝ。斯くて最近の我農村は恰も國家保護熱の中毒症に陷つた狀態であるが、併し國家保護の實際的效果は前述の如く各自の自力更生助成の程度以上に出で得るものでは無い。農村の窮乏打開の原動力は繰返へして言へるが如く、何處までも農村自力の奮鬪努力に之を求めねばならぬ。他力の援助には限りがあり、又其永續は之を期待し得るものでも無い。加之、我農村は一部の神經質な農村居住者が想像し、幾多の農村論者が主張する如く決して疲弊頻死の大患者では無い。唯〻急激なる經濟界變動の打擊に少しく疲勞を增せるに過ぎぬ。反省一番奮起して更生に努力せば決して自ら立つ

の力を失つて居るのでは無い。現に今日の不況時に於ても自奮努力せる幾多の農村が相當の繁榮を樂みつゝあるの實例は各地方に珍らしくないのである。

然れば吾々は我農村人士に對しては只管今後の自力更生に奮勵努力せんことを切望すると共に、經濟政策の當局者に對しては、能く其施設の影響と豫後とに留意して其處置を誤ずると同時に、特に農村人士の自力更生の運動就中其自治的組織運動の翼成に盡し、又同時に從來の如く强制的若しくは半强制的に農村の貨幣的負擔を增加するが如き施設を避け、努めて其負擔の輕減に盡力せられんことを希望せざるを得ぬ。（昭和七年九月二十五日稿）

賃銀學說史上の收益說

高橋誠一郎

一

經濟學がアダム・スミスの手に於いて其の近代的形態に到達してより以來、絶えず論爭せられて今日に及べるものゝ一に賃銀理論がある。スミスの賃銀學說は、彼れが暗中模索的に、後世の賃銀理論を預示せるの點に於いて興味あるものである。而して彼れの時代以後に於ける歷史的進化の諸時期に特有なる諸問題は、彼れの學說中に包含せられたる諸眞理の或るものをして特に顯要なる地位に立たしめたのである。

スミスは、資本の蓄積及び土地の領有に先立つ初期未開の社會狀態に在つては賃銀の多寡は全然勞働の生產物によつて決定せらるゝものと觀た。（The Wealth of Nations, 2nd ed., 1778, p. 57.）。然しながら、資本の蓄積以後の狀態に在つては「勞働の全收益は常に勞働者に屬するものではない」。（此の辭句は「國富論」初版中に存せざるものであつて、一千七百七十八年の再版に至つて初めて挿入せられたものである。同版 p. 59.）。而して、「又或る國の土地が悉く私有財產と爲るや、地主は、總べての他の人々の如く、彼れ等が嘗つて蒔きたることなき處に刈ること